

平成29年度 保育所実習報告

保育所実習担当 初等教育科 高濱正文・山本裕一
保 育 科 相浦雅子・島田知和

平成29年度の保育所実習は、保育実習ⅠA（保育所）を1年次2月に、保育実習Ⅱを2年次8月下旬と9月上旬の2期に分けて、県内外の公立保育所・私立保育園・認定こども園にて実施した。実習に向けて、1年後期、2年前期、2年後期の3期間に渡り実習指導を行った。1年次では、実習の意義、目的、内容の理解、全国保育士会倫理綱領の読み込み、日誌の書き方を指導した。2年次では、保育実習ⅠA（保育所）の振り返り、指導案の書き方、保育実習Ⅱを終えてからのさらなる振り返りをした。また1年生を指導する時間の中で自分自身の育ちを自覚し、改めて実習の意義を実感する機会を設け、資格を生かした専門職への意欲が高まるような指導体制を組んだ。

*

1. 実習先 保育実習ⅠA（保育所）・・・大分県内 109件 県外 7件
初等教育科 145名 保育科 45名
保育実習Ⅱ・・・・・・・大分県内 103件 県外 7件
初等教育科 141名 保育科 45名
2. 実習期間 保育実習ⅠA（保育所）：平成29年2月13日～23日
保育実習Ⅱ 1期：平成29年8月16日～26日
2期：平成29年8月30日～9月9日
3. 保育所実習の意義・目的
 - ①子どもと直接かかわることにより、気持ちや心身の発達について理解する。
 - ②保育所の一員として活動することにより、保育所の役割や保育士の職務について理解する。
4. 保育所実習の様子
 - 1年次2月の実習では病欠が多発するが、2年次ではほとんど見られない。
 - 1年次と2年次が同じ実習先のため、学生の成長を認めてもらっている。
 - 学生は、0歳から6歳までの子どもたちとのかかわりを通して、年齢による違いを目の当たりにし、発達過程の理解の必要性を実感している。
5. 保育所実習を担当して

1年半にわたる保育所実習指導を通して見えてくる学生の変容から、実習体験の影響、実習後の振り返りの意義を感じている。今後は、学生の持つ保育職へのモチベーションをさらに高めるために、実習先と養成校との協働体制を強化していかなければならないと思う。

保育実習Ⅰ・Ⅱを終えての感想

初等教育科2年 柴田 梨帆

保育実習Ⅰ・Ⅱを通して、実践的な多くのことを学ぶことができました。実際に子ども達と関わることで、沢山の反省点や課題を見つけることができました。保育実習Ⅰでは、子ども達に積極的に関わることができず反省点もとても多く自分の未熟さを実感した実習となりました。もっと積極的に質問をしたり、子ども達に明るく笑顔で関わるべきでした。その反省を活かして保育実習Ⅱでは、クラスの子ども一人一人に積極的に関わることを意識すると、前回よりも子どもたちが心を開いてくれていることを実感できました。先生方からも褒めてもらい、とても充実した保育実習となりました。反省点として子ども達が叩いたりなどの気を引こうとしたとき、きちんと叱ることができなかったことです。私は、怖がられてしまうのではないかと心配でした。先生方の姿やご指導から、叱る際にはきちんとまずは子どもの意見を聞くことが大切だということを学びました。

二回の実習を通して、授業で習ったことを頭では分かっているにもかかわらず実際には簡単ではないこと、子ども達の気持ちを理解することはほんとに難しいと思いました。しかし難しいですがとても大切なことだと思います。子ども一人一人をよく観察することを常に意識し、子どもの気持ちになって考え、時には見守り、時には聞いてみたり、などその子どもの性格や時々状況を把握したうえで、それに合わせた援助をすることが子どもの気持ちの理解につながっていくことがわかりました。

また、年齢によってクラスは分けられていますが、その中でも発達段階の個人差がとても大きいことがわかりました。一人一人がどこまでできてどこからができないのかをきちんと把握

しておかないと適切な援助はできないと思いました。

そして、安全面での配慮については、子ども達は様々なものに興味関心を持ち、危ないことの判断がつきません。常に気を抜かず子ども達の命を預かっている責任を持つことの重要性を改めて感じました。

毎日の日誌は、書くのは大変でしたが子ども達の姿や保育者の援助・配慮や気づきなど細かく書き、先生方からのアドバイスもあるため、これからは絶対に役立っていくと思うので大切にとっておこうと思います。

様々なことを学べた保育実習となり、一年次より二年次と反省を活かして成長することができたかと思っています。これからもこの保育実習ⅠⅡで学んだことを活かして、子ども達の気持ちを大切にできる保育者を目指したいです。

保育実習Ⅰ・Ⅱを終えて

初等教育科2年 首藤 早希

昨年の保育実習Ⅰでは、初めての实習で、また、対象も3歳未満児でほとんどの子どもと関わったことがない状態で初日は不安でいっぱいでしたが、保育室に入ってみると子どもの何人かが笑顔で寄ってきてくれて、一緒に絵本やおもちゃで遊んでいるうちに他の子どもたちもよってきてくれて、時間はかかりましたが少しずつ馴染んでいくことができました。未満児さんは、発達上まだ話せない子どもが多く、泣いているときや指をさして示しているときも何を伝えたいかが分からず苦戦しましたが、近くにあるものを渡し、指す方向に行くと子どもが自分で見つけてやりたかったことをやってくれたので、完璧には理解できなくても最終日らへんではなんとなく子どもの伝えたいことが分かる

ようになりました。未満児さんは、声かけも大きな声で言うよりも優しく声をかけたほうが良いと先生に教えられて、優しく声かけをしてやさしい雰囲気を大事にするように心がけました。

冬の実習ではわからないことだらけで、自分の行動が正しいのかわからず積極的にいくことができず、戸惑うことも多く反省するところがたくさんありました。夏の実習では、冬の後悔や反省したことを今度は改善して努力しようと思ひ挑みました。

夏の実習は、3歳以上児さんで未満児さんよりも元気がよく、自分の気持ちもしっかりと伝えることができる子どもばかりで、その分喧嘩も多く、冬の実習よりもこちらが元気よく声をはらないと子どもたちに届かないことが多く、声が小さいので苦戦しました。でも、先生が、「手遊びをすると注目してくれるよ」「距離感も大事よ」など教えてくれて、声が小さいなりに先生が教えてくれたことをしてみると、子どもたちが注目してくれたりたくさん発言してくれたり、1対複数のコミュニケーションが取れるようになりました。

日誌では、考察が全くできていなかったり内容が薄かったりと何度も先生の添削が入っていましたが、子どもの姿を具体的に書き、それに対する援助とその意味を書くように気をつけると、今年は添削が去年に比べると少なくなり、先生にも成長したと言っていたのでとてもうれしかったです。それと同時に、去年の日誌の内容が薄すぎて申し訳ない気持ちになりました。

授業で習った内容やいろいろ学んだことも、いざ実践となると教科書通りにいかなかったり、すぐに適切な対応が出来なかったりと苦戦しましたが、その分自分なりのやり方で、子どもと真剣に関わることで子どもにも思いが伝わり、子どもも答えてくれると思ひました。

保育は、専門性や知識も大事だけれど、やはり実践で子どもと実際にかかわらないと難しいところがたくさんあると思ひました。その分、子どもたちの実際の姿が見られて、子ども一人ひとりの特徴や反応、また、子どもならではの目線での考えが分かり、自分では考えもつかないことや子どもの興味関心が分かり、次の活動や普段の時のかわりに生かせるから、実際にかかわることで学ぶことは多いと思ひました。

去年も今年も、実習初日は不安な気持ちでいっぱい、子どもたちと仲良くなれるか、泣かれたりしないだろうかと思うと、少し憂鬱にもなりましたが、実際に子どもたちに会ってみると、笑顔と元気いっぴいな姿で積極的に子どもから来てくれて不安はなくなり、子どもがかわいい、明日も会いたい、楽しみ、という思いが日に日に強くなり、実習終わりの3日ぐらいになると、もうこの子たちと会えなくなると思うと実習が終わるのが悲しくなっていく、思ひっきり後悔しないように遊ぼうと思ひ全力で子どもたちと遊びました。

保育園の先生方も実習生は失敗して学ぶ機会、たくさん質問していいよ、と言ってくださり、実習で町のお祭りに参加したり、保育園のイベントに参加したりと貴重な体験をさせていただきたくさん学ぶことができました。実習中は、とても大変で体力的にきついと思うことも多々ありましたが、終わってしまうと楽しかった思い出がたくさんあって、とても良い環境で本当に良い経験ができたと思ひました。

保育実習Ⅰ・Ⅱを振り返って

初等教育科2年 山本あかり

保育所実習全体を通して学んだことは保育のやりがい、楽しさです。保育実習Ⅰでは辛かつ

たこと、悔しかったことが多かった分、保育実習Ⅱでは反省して成長することができました。

保育実習Ⅰで特に意識して取り組んだことは、保育士の保育を見て学び、実践することです。未満児クラスに入らせていただきましたが、援助の仕方や言葉かけなど一から学ぶことが多く、とてもとまどいました。毎日、反省することが多く、自分のできなさに悔しい思いをしましたが、学んだことや反省したことを実践していくことで日々成長していくことができたように感じます。

2歳児クラスに入らせていただいた時、一人の子どもとなかなか距離が縮まらないことで悩んだことがありました。積極的にかかわっていたつもりでしたがうまくいかず、2歳児の保育は難しいと感じました。しかし、絵本読みや午睡の時のトントンなど、日ごろの援助を徹底することで「ありがとう」と言葉をもらいました。そういったことから保育のやりがいを感じるようになりました。

また、指導案を初めて実践して、全体指導の難しさ、発達に合った遊びをすることの大切さを感じるようになりました。うまくいかなかった分、次に生かすことができたと思います。

実習をしたことでさらに保育について学びたいと思うことができ、以前よりも意欲的に勉強に励むことができました。

保育実習Ⅱでは、以上児クラスに入らせていただきました。普段はたてわり保育で3、4、5歳とたくさん関わることができました。5歳児が年長としての自覚を持ち、クラスを引っ張っていく姿を見たり、子ども一人ひとりが思いやりの気持ちを持って行動している様子を見たりすることができました。保育士は一人ひとりに合った援助や言葉かけをしており、子どもの自立を促していました。また、保育士が子どもの気持ちを真摯に受け止めている姿を見て、私もこんな保育がしたいと自分の中で思い描く

ことができました。

いざこざがあった際に子ども同士の気持ちを代弁することが難しく、最初の方は保育士の方が変わって代弁してくれました。その代弁の仕方を見て学び、だんだんと子どもの気持ちを受け止め、理解し、代弁できるようになったと思います。そして、なぜいざこざが起きたのかを説明するよう促した後に、子どもたちの気持ちを代弁し、これからどうしたらいいのかを考えられるよう言葉かけすることを意識して取り組んでいきました。

設定保育を実践させていただき、多くのことを学ぶことができました。実践しているときは頭が回らずに、予備で準備してよかったと思うことが多々ありました。気持ちの面では、時間ばかりを気にしてしまい、全体を見ることがあまりできていなかったように感じます。

保育実習Ⅰの時の反省点を生かし、保育実習Ⅱでは笛を使って全体指導やゲームの区切りをつけました。子どもたちも興味を持って話を聞いてくれたので、楽器や笛などを使うことの大切さを実感しました。なかなか全体指導が通らず、保育士の方に手助けしていただいたことが多々あり、とても悔しかったです。そのことから、反省を生かした全体指導ができるようになりたいと強く感じました。運動会練習での保育士の全体指導を見て学んだことを実践していきたいです。

子供たちの笑顔や「楽しかった」という言葉から、保育のやりがいや楽しさを感じました。これからもさらに保育について学び、成長していきたいです。

保育実習Ⅰ・Ⅱを終えて

保育科2年 加島 祐美

計20日間の保育所実習を終えて、私は保育士として働く自覚が出来たなと思いました。正直に言うと、子どもと関わるのが苦手だったし、ましてや、それを仕事として働くことにとても不安がありました。そんな私でしたが、今では保育士として働けるのが楽しみだし誇りに思います。子どもが苦手と書いていましたが、それは子どもの目線に立って物事を見られておらず、大人目線で物事を考えていたから、子どもの思いがわからずに不安を感じていたんだと思います。実習をしていく中で、年齢ごとに出来ることは違って子どもたちが出来ないことが出来るようになった時の嬉しさは今でも覚えています。成長を見ていくうちに、次はこれに頑張りたいなと思ったり、その子自身の良さを引き出してあげたいと思うようにもなりました。1つエピソードとして自分の中でも自信につながった出来事がありました。

日頃は友達や先生に対しても物を取ってしまうなど気を引くようなことをしていたAくんと関わる中で、“この子をクラスのリーダーとして盛り上げて引っ張っていける力もあるだろうから何か変えてあげたい”と思いました。実習生という事でうまく関われなかったのですが、諦めずに話しかけたり、こちらの思いを伝えていました。ある日のプールの時間に他の子どもが喧嘩をし始めてしまい、泣いてしまいました。そこで私はAくんを呼び「Aくんとゆみちゃんだけの頼みね」と言って「〇〇くんは何でそうなってしまったのか聞いてくれる？」と言うと、聞きに行き、話の内容を私に教えに来てくれました。「どうしたらいいと思う？」と聞くと、「ごめんなさいするといいね」とその子は答えたので、「なら〇〇くんはゆみちゃんからお願いしようかな」と言い、Aくんは喧嘩をしている友達に声をかけに行きました。すると、“僕できたよ”というような表情で私にピースをしてくれました。それから何かトラブルがあるたびに

Aくんは行くようになり、いつしかお兄さんのように優しくみんなを見守ってくれる存在になっていました。おもちゃを取り合う友達を見て自分のおもちゃを手渡してピースをしてくれた時には何だかとても胸を打たれて思わず涙が出てしまいました。

子どもと先生という信頼関係も必要だと思いますが、一緒に楽しめる存在として、私は子ども達と関わっていきなりたいなと思いました。他の先生にはない良さを自分は取り入れていきたいと思うし、お互いを励まし合って保育園全体が良い環境になるように私はこれから先取り組んでいきたいです。

保育所実習Ⅰ・Ⅱを終えて

保育科2年 戸高 有紀

今回の保育所実習を終えて、自分には何が足りていないのかという事を見つける事が出来ました。Ⅰを終えた時はただ見ている事が多く積極的に動けていなかったという反省があったので、今回は自信を持って取り組むようにしました。自分から子どもの側に回って話をしたり、まわりに来てくれる子ども以外にも自分から話しかけるようにしました。その中でも、その子がどんな性格なのかどう関わっていけばより良く関係を作ることが出来るのかを考えながら接するように心掛けました。積極的に取り組むという目標を立てた結果、子どもにはだんだんと自分から話しかけたりする事に自信を持つ事ができるようになりました。しかし、先生方と関わる事がまだ自分には難しく感じているなど次の課題が出て来ました。分からない事、今何をすれば良いのかなど質問がありましたが、見てだけで自分から先生に話しかける事があまり出来ませんでした。また、自分が何が分かっ

ていないのか、何を気にしなければいけないのかを自分の中で見つける事が不得意なのだと分かりました。自分で気づいて行動する事が苦手という事を得意になるよう自分自身を変えていかなければいけないと分かりました。自分で気づけない分、先生方が行っていることは自分に取り込み、活かすように心掛けました。その結果話掛け方や聞き方、どんな所をよく見ておかないといけないのかなど自分でも一つ一つ気をつけながら関わる事が出来たのではないかと思います。

保育所実習を通して、就学前までの全年齢と関わり自分の目や身を持って発達過程の姿を学ぶ事が出来て、具体的に指針などの意味を理解する事が出来ました。その中でも、同じ教室にいても一人ひとり出来る事の違う事など一人ひとりへの対応をする事の大切さ、大きく見るだけでなく、一人ひとりに視点を置いて関わっていく事が大切なのだと分かりました。その中で先生はただ見ているだけ一緒に遊ぶだけではなくこの子はこうなって欲しいというねらいを持った関わりをしているのだと学びました。この学びに気づき、自分が今まで甘い考えを持っていたなと反省しました。仕事だからと時間を過ぎるのを待ち一日をやり切るだけではなく、先を見て関わっていかなければいけない重要な仕事なのだと思います。また、命を預かっている責任を持って取り組まなければいけないのだと思います。今回学んだ事、保育実習を通して自分に身についた事を就職して保育者となった時に活かしていきたいと思います。今回より次へ次へとより良い保育が自分でも出来るようになりたいと思います。